

男が生きていくには・・・父親の役割

(映画：遙かなる山の呼び声から)

田島耕作（高倉健）：どうした。

武志：ひとみちゃん、帰っちゃった。

耕作：それで淋しくなってきたんか？

よし、ここで 寝ろ。

たけ、父さん死んで淋しいか？

おじさんの父さんもおじさんがたけと同じくらの時に死んだんだぞ。

武志：病気で？

耕作：いや。仕事にいきずまってな、借金が返せなくなって、うちの近くの川橋の下で、首くくって死んだんだ。おじさんの母さん、そのころ家にいなくてな、おじさんと兄さんと父さんの3人でくらししていたんだ。その父さんが死んだというから、兄さんとリヤカーもって迎えにいったんだ。そして橋の下にぶらさがっている父さんを降ろして、リヤカーにのせて、こもかぶせてな、兄さんと2人で引っ張って帰るんだ。町の人がいっぱい見に来てな、おじ

さん、悲しくて泣き出しそうになるんだけど、兄さんが小さな声で、泣くな、みっともないから泣くな、そういうんだ。おじさん必死になって我慢して、歯を食いしばって涙こらえて、歩いたんだ。

武志：本当に泣かなかった？

耕作：ああ泣かなかった。男が生きていくには、我慢しなくてはいけないことがいっぱいあるんだ。

耕作：だから母さんが病院に行ったくらいで泣いたりしたらだめだぞ。

．．．．．

田島耕作：背中をピンと伸ばして、姿勢をよくしろ。何べんも言っているだろ。

馬は、股で乗るんだ。股で。

いいか、手綱を軽く持っている。

どうだ、気持ちいいだろ。股をぐっとしめてろ。

民子（倍賞千恵子）：怖いわ。

耕作：自分の馬じゃあ、ありませんか。

いいか、武志、よくみている。

馬は、訓練しなきゃあ、はやく走れないんだぞ。

いいか、今、手綱をしめているから、走りたくても走れないんだ。

走りたくて、いらいらしているのが分かるだろ。

こうやって、じらしといて、次に、手綱をゆるめると同時に、自分の体を前にだしてやるんだ。

(遙かなる山の呼び声、山田洋次監督：1980年
日本アカデミー賞最優秀賞)